

## ○環境大臣賞

### 1. 団体賞（天の川賞）

ひょうごけんりつだいがくにし てんもんだい  
★兵庫県立大学西はりま天文台（兵庫県佐用町）

日本最大の口径2mの「なゆた望遠鏡」等を用いて、一般を対象とした天体観望会や自然学校を開催し、天体の観測を通して良好な大気環境を保全することの大切さを提唱している。

兵庫県と連携して佐用高校や町立図書館において天体講座を開催するなど地域から星空の景観を守る取組を行っている。

ペルセウス座流星群の極大日に合わせ、天文台を開放するなど、佐用町と一体となった取組を進め、県外から来客を呼び込み地域おこしを推進している。平成2年の竣工から平成22年11月までに来園者が200万人に達するなど、活動実績が顕著である。

### 2. 個人賞（すばる賞）

かつらのぶお  
☆桂伸夫氏（福島県いわき市）

昭和48年の磐城天文同好会結成から40年以上の長きに渡り活動し、現在は、いわき天文同好会の会長として、全国星空継続観察会などに積極的に活動している。

いわき市環境アドバイザーとして、年に数回、各種天体観察会の開催や、福島県立磐城高校でスーパーサイエンススクールにおける天体観察の指導のほか、市民講座の講師として、天体の話や天体観察等の指導を行っている。

また、不定期ではあるがラジオへ出演して、天体についての話をしたり、地元新聞においては平成22年から3年間コラムを執筆するなど、各種媒体で天体についての情報発信を行い、幅広い層に対する環境教育活動に尽力している。

## ○全国協議会会長賞

### 1. 団体賞（天の川賞）

ぐんまけんりつまえばしじょしこうとうがっこうちがくぶ  
★群馬県立前橋女子高等学校地学部（群馬県前橋市）

地学部として主に「天文学」分野の観望・観測活動をしており、皆既月食や金環日食など、その年の天文現象に合わせた天体観測や、各流星群観望、国際宇宙ステーションの観測などを実施してきた。

平成23年度から「夜空の明るさ」調査を開始し、継続的に前橋の夜空の明るさのデータを蓄積し続けて、その調査結果を県内外の多くの研究発表会に出展し成果を公表している。

夜空の明るさ問題（光害問題）について、昨年度は「伝統的七夕ライトダウンキャンペーン」という全国的な活動に賛同し、群馬県内への周知と参加を呼び掛けるなど、光害問題についての啓発活動も行っている。

ふくしまとうりょうこうとうがっこうかがくぶ  
★福島東稜高等学校科学部（福島県福島市）

大きな天体現象がある際には、学校の天文台を地域の方々に開放し、科学部生徒が中心となって解説や観測を行っている。また、近隣の小学生に「夏の星空教室」の開催をするなど、地域住民を招いた星空観察会を行うことで、地域の環境保全意識や天体を中心とする自然科学教育の意識の高揚に貢献している。

平成25年8月には沖縄県石垣市において、「美ら星研究探検隊：新しい星を発見しよう」に参加し、新小惑星と電波星を発見した。その功績が称えられ、福島東稜高校学校長賞を受賞した。

### 2. 個人賞（すばる賞）

該当者なし